

求められるキャンパスでの子育て支援

二木泉

国際基督教大学ティーチングアシスタント
NPO 法人サポートハウスじょむ事務局長

社会人を経て、2006年から2008年まで大学院博士前期課程に在学しました。大学院1年目の12月に出産しました。その際には学内に育児に関して相談できる人もおらず様々な困難なことがありました。私は1学期間休学したのですが、その間の休学費もかかります。自活していたので経済的にも休学費の支払いは大変ですし、休学してしまうと最低就業年限を越えてしまうので各種奨学金の支給対象にならず、その分、経済的負担が増えてしまうことも多いです。

また復学の際にクリニックからは「ICU生は休学して海外に行く場合が多いので」という理由で健康診断書の提示を求められ、産まれて数週間の乳児をつれて病院に行くわけにもいかず、その間はシッターさんの手配をしました。復学後は保育園に入園させたのですが、学生なので優先順位が低く会社員時代に産まれた長女とは2年間、別の園に通わせることになってしまい物理的にも精神的にもとても負担がありました。

私は実家も遠く、ほぼ一人で家事・育児をしてきたこともあり、実際に育児と学業を両立させることは想像以上に大変でした。保育園が6時までだったので通学時間も考えると限られた授業しか取れません。また祝日は保育園がやっていないので祝日が多い月曜日の授業は取れません。学業と育児を両立するためにICUの近くに引っ越しをすることも考えましたが、産まれたばかりの長男の保育園はあっても、今度は逆に当時3歳の長女の保育園が見つからず断念しました。フルタイムでなくても良いので、比較的安く預かってくれる先があったら助かるのにと切実に思いました。私は本当は博士後期課程に進学をしたかったのですが、このようなことが続き心底疲れてしまい、博士前期課程修了後にすぐに進学することを諦めてしまったように思います。その時に誰かに相談できたらよかったのと思います。今、子どもが10歳と7歳になり、生活が落ち着いたこともあり来年から北米の大学に博士課程に進学予定です。

進学予定の北米の大学には、家族で入れる寮はもちろんのこと、**Family Center**という大学の施設で子育てに関する様々な情報を提供しています。また古着の洋服やおもちゃなどが交換できるコーナーがあるなど手厚いサービスを提供しています。実際にこのような**Center**を利用することが少なくても、大学が家族を持つ学生を歓迎しているように感じ、学業と育児に関して精神的な支えになることは間違いありません。

2006年から2008年の在学中には、海外からロータリープログラム等で大学院にいられていた方の中で、お子さんを連れてこられている方が複数名いました。また、パートナーの方が日本で出産された方もいました。その際には日本人の学生が病院に付き添うなど、個人的にサポートし、なんとか乗り切ってきました。ロータリープログラムやアジアの国々から来られる留学生は、ミッドキャリアの方が多く年齢も30代などで、家族同伴で来られる方も多いです。これまでICUは高校卒業後18歳で大学に入学する学生の場合が多く想定されていたように思いますが、今後はライフコースが多様化し、より多様な属性の学生が大学、大学院に入学してくることが想像できます。その方々が学業と生活の両立ができるような支援がなされるように望みます。

すぐにできる支援策として、留学生も含めて子ども関係や妊娠中に困ったことがあった場合に相談できる窓口があるとういと思います。そこには学内外のサポートがある程度まとまっているリーフレットなどがあると便利ではないでしょうか。特に留学生には、妊娠したらする手続き（市役所で母子手帳をもらう、病院、経済的支援）や、英語で相談できる場所などが紹介されているとういと思います。また日英両語で出産後に利用できるサービス（保険センター、保育園、ファミリーサポート、NPO、病児保育等の場所や利用の仕方、相談先）の情報を提供するのも有益ではないでしょうか。最後に、教員の皆さんがアドバイザーが困っている時に「ここに相談したらよいよ」と伝えられる窓口をぜひ作っていただきたいと思います。育児をしながら学業を続けるのは想像以上に孤独です。学生がいざと言う時に相談できる窓口があるだけでも精神的な支えとなり、学業を続けられる場合があると考えます。